

立正大学博物館年報

9

平成 22(2010) 年度

立正大学博物館

序

平成 22 年度末には東日本大震災が勃発して未曾有の災厄が始まり、終わりが知れない。自然の威力に人智が及ばない現実、原子力発電所の事故を合併して混乱は収まってはいない。東日本各地の博物館は、施設・収蔵品の被害状況の正確な把握が急がれる現状である。幸いにも立正大学の博物館は大きな被害を蒙らなかったが、自然災害への対応が不可欠であることが認識されました。

平成 22 年度も通常の博物館業務を遂行した。春季の特別展で「骨蔵器」を扱い、秋季の企画展では「群集墳」を採り上げた。ともに立正大学博物館に所蔵する資料を中心としたものではあるが、博物館をとりまく環境の変化に起因する障害は排除することはできなかった。博物館館務実習の実施は、大学博物館における重要な任務の一つであり、平成 22 年度も問題なく行った。文化史・自然史の特別講義に加え、刀剣の扱い、資料台帳の作成、更には熊谷市域の近世石造物を対象とした資料収集実習である。

立正大学博物館の所在する熊谷校地は、開設以来 40 年を経過した再開発事業も一段落したところである。今後は、教育関連施設としての博物館の充実を希望したい。

平成 23 年 4 月

博物館長 池上 悟

目 次

序	II. 事業報告…………… (13)
目次	(1) 開館日数・入館者数
I. 博物館の概要…………… (2)	(2) 出 版
(1) 組織と職員	(3) 資料活用
(2) 立正大学組織表	(4) 常設展示・企画展示
(3) 立正大学博物館規定	(5) 調査・研究
(4) 立正大学博物館細則	(6) 教育普及
(5) 施 設	III. 受贈図書目録…………… (28)

(1) 組織と職員

館長	池上 悟
専門職員	内田勇樹
事務嘱託	稲澤徳多

新井敦志 (法制研究所長・法学部教授)
西松能子 (心理学研究所長・心理学部教授)

秋田貴廣

(博物館関係学識経験者・仏教学部教授)

第1号委員

池上 悟 (博物館長・文学部教授)

内田勇樹 (専門職員・非常勤嘱託)

仲山佳秀

(社会福祉学部長・社会福祉学部教授)

野沢佳美

(文化史関係学識経験者・文学部教授)

島津 弘

(自然史関係学識経験者・地球環境科学部教授)

米林 仲

(地球環境科学部長・地球環境科学部教授)

評議員会
||
理事会
||
監事

立正大学

大学事務局

秘書室
企画広報室

総務部

総務課
人事課

管財部

大崎管財課
熊谷管財課

経理部

大崎経理課
熊谷経理課

学事部

学事課

仏教学部
文学部
経済学部
経営学部
法学部
社会福祉学部
地球環境科学部
心理学部

大学院

文学研究科
経済学研究科
経営学研究科
法学研究科
社会福祉学研究科
地球環境科学研究科

学生部

大崎学生生活課
熊谷学生生活課

司書部

大崎図書課
熊谷図書課

情報処理センター

大崎電算機室
熊谷電算機室

国際交流センター

大崎国際交流課
熊谷国際交流課

入試センター

大崎入試課
熊谷入試課

キャリア開発センター

大崎キャリア開発コース課
熊谷キャリア開発コース課

熊谷総務部

総務課

熊谷学事部

学事課

法学部事務室
社会福祉学部事務室
地球環境科学部事務室
大学院法学研究科事務室
大学院社会福祉学部事務室
大学院地球環境科学部事務室

立正高等学校

立正中学校

事務室

(3) 立正大学博物館規定

(設定)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」（以下「博物館」という）を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料（以下「資料等」という）を収集、保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 資料等の収集、整理および保管
- 二 資料等の展示および公開
- 三 調査研究活動
- 四 調査研究成果の発表および出版
- 五 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
- 六 講演会、講習会および特別展示会の開催
- 七 その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- 一 館長
- 二 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の教務を総括する。

3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。

4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。

5 館長が欠けたときは、補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

2 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、任期は3年とする。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会（以下「委員会」という）を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者を以て構成し、学長が委嘱する。

- 一 館長
- 二 専門委員
- 三 学部長から2名
- 四 研究所長から2名
- 五 博物館学芸員関係学識経験者から1名
- 六 考古学および文化史関係学識経験者から1名
- 七 自然誌関係学識経験者から1名

2 館長の推薦により、前項に定める委員会のほか、学識経験者若干名を加えることができる。学識経験者委員の委嘱は学長が行う。

3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴く

ことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第三号乃至六号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が召集し、議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

一 資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項

二 博物館の管理運営に関する事項

三 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項

四 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項

五 博物館の予算・決算に関する事項

六 その他必要な事業に関する事項

(細則)

第12条 この規定に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館規定細則によるものとする。2年とし、再任を妨げない。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

(4) 立正大学博物館細則

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館（以下「博物館」という）の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は、所定の手続きをとらなければならない。

2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

(入館料)

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わ

なければならない。

- 2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

- 第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書(様式2)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。
- 2 資料の所蔵者または寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を利用許可申請書に添付しなければならない。
 - 3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。
 - 一 利用に際しては博物館の専門職員の支持に従うこと。
 - 二 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。
 - 三 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。
 - 四 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書(様式2)を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会(以下「委員会」という)

の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。

- 五 本条第1項による利用許可を受けた者が、当該資料を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

- 第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。
- 2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。
 - 一 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業
 - 二 博物館法(昭和26年法律第285号)に規定する博物館等の行う事業
 - 三 学術研究
 - 四 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき
 - 3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

- 第9条 資料などの貸出を受けようとする者は、館外貸出許可申請書(様式3)を館長に提出し、その許可を受けな

- なければならない。
- 2 館長は前項の貸出許可申請書（様式4）の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書（様式4）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。
- 3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。
- 4 本条第1項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。
- （資料等の貸出料金）
- 第10条 前条第2項による許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するものとする。
- 2 前項の定めにかかわらず、第8条第2項一号、二号および四号のいずれかに該当する場合は、貸出料金を全額免除する。
- 3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を1部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。
- （寄託）
- 第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書（様式5）寄託申込書（様式6）に記入のうえ、館長に提出するものとする。
- 2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない。
- 3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して該当資料の受領証（様式7）・受託証（様式8）を交付するものとする。
- 4 館長は、寄託を受けた資料等について十分な注意を持って保管しなければならない。
- （細則の改廃）
- 第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。
- （附則）
- 1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。
- 2 この細則は平成14年4月1日から施行する。
- 3 この細則は平成15年4月1日から施行する。

様式 1

受付番号

立正大学博物館資料
館内利用許可申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用をしたいので申請します。

記

利 用 目 的	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 資 料				
利 用 区 分	分 閲 覧 ・ 観 望 ・ 模 造 ・ 撮 影 ・ そ の 他 ()			
利 用 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 責 任 者				

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、借用資料については貸与者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

様式 2

第 号

立正大学博物館資料
館内利用許可書

年 月 日

立正大学博物館長 印

様

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用を許可します。

記

利 用 目 的	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 資 料				
利 用 区 分	分 閲 覧 ・ 模 写 ・ 模 造 ・ 撮 影 ・ そ の 他 ()			
利 用 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料館内利用の際に提示し、利用期間中携帯してください。

様式 3

受付番号

立正大学博物館資料
館外貸出許可申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

記

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを受けたいので申請します。

利 用 目 的				
貸 出 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

様式 4

第 号

立正大学博物館資料
館外貸出許可書

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

記

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを許可します。

利 用 目 的				
貸 出 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料の館外貸出しを受ける際に提示してください。

様式 5

受付番号

博物館資料寄贈申請書

立正大学博物館長 様

申請者 住所 氏名 電話 印

年 月 日

下記のとおり博物館資料として寄贈したいので申請します。

資 料 名	数 量	備 考

様式 6

受付番号

博物館資料寄託申請書

立正大学博物館長 様

申請者 住所 氏名 電話 印

年 月 日

下記のとおり博物館資料として寄託したいので申請します。

寄 託 期 間	年 月 日 () から	年 月 日 () まで	資 料 名	数 量	備 考
寄 託 資 料					

様式 7

第 号

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

博物館資料受領証

下記のとおり博物館資料として受領しました。

記

資 料 名	数 量	備 考

様式 8

第 号

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

博物館資料受託証

下記のとおり博物館資料として受託しました。

記

受 託 期 間	年 月 日 () から	年 月 日 () まで	資 料 名	数 量	備 考
受 託 資 料					

様式 9

博物館資料借用書

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

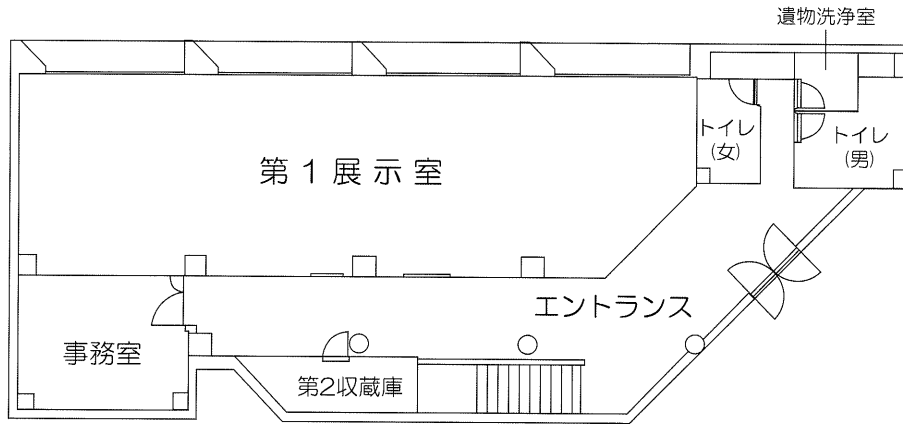
下記のとおり博物館資料として借用しました。

記

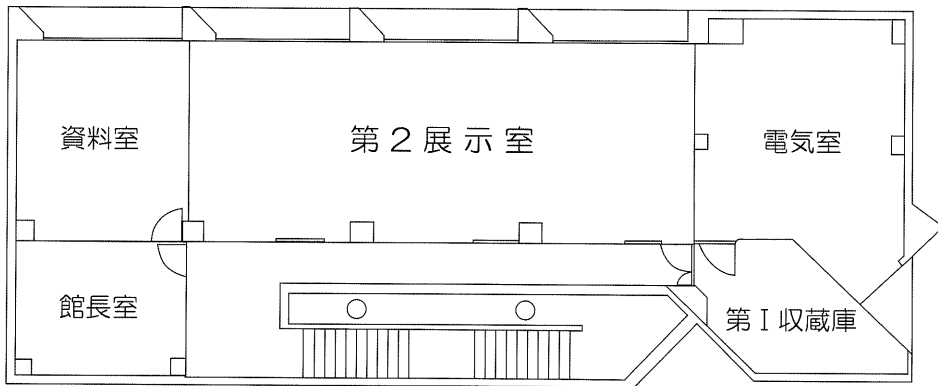
使用期間	平成 年 月 日 () から平成 年 月 日 () まで			
借用理由				
借用資料	資料名	数量	備考	
取扱担当者				

※ この借用書は、博物館資料の返却時に返していただきますので、大切に保管してください。

(5) 施設



1階 平面図



2階 平面図

- 建物
 - 所在地・・・埼玉県熊谷市万吉 1700
 - 建築面積・・・376.8 m²
 - 構造・・・鉄筋コンクリート造 2階建

●各室面積一覧

(1階)

第1展示室	93.88 m ²
事務室	17.10 m ²
第2収蔵庫	3.22 m ²
トイレ	11.01 m ²
遺物洗浄室	2.26 m ²
エントランス	45.64 m ²

(2階)

第2展示室	71.22 m ²
館長室	16.98 m ²
資料室	23.89 m ²
第1収蔵庫	12.30 m ²
電気室	39.00 m ²

●各室仕様

(第1展示室・事務室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ミネラートン

(第2展示室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ミネラートン

(館長室・資料室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ジブトーン

●電気設備

受電設備	6.6KV
変圧器設備	電灯 100KVA 動力 80KVA
照明設備	展示室・ハロゲンランプ使用 館長室・事務室・資料室・蛍光灯使用

●防犯・防災設備

防犯設備	各室熱センサー取付、非常通報設備
ITV設備	CCDカメラ4台、展示室等監視
自動火災報知設備	P型1級5回線
消火設備	粉末消火器9台

●空調設備

空調機	空冷式、パッケージエアコン(個別)
-----	-------------------

●給排水設備

給水設備	市水道使用
給湯設備	貯湯式電気湯沸器

Ⅱ．事業報告

(1) 開館日数・入館者数

平成22年4月1日（木）～平成23年3月31日（木）までの205日間を開館した。総来館者数2,012名で、内訳は一般1036名、大学生448名、教職員19名、高校生以下125名、オープンキャンパス384名である。団体見学は、直実市民大学・桶川市民大学・上尾市文化財巡り・館林女子高等学校・藤岡中央高等学校・飯能南高等学校・熊谷市中央公民館審議委員会・大東文化大学オープンカレッジ・彩の国いきがい大学があり、その他に社会福祉学部・法学部のゼミ見学が4件あった。

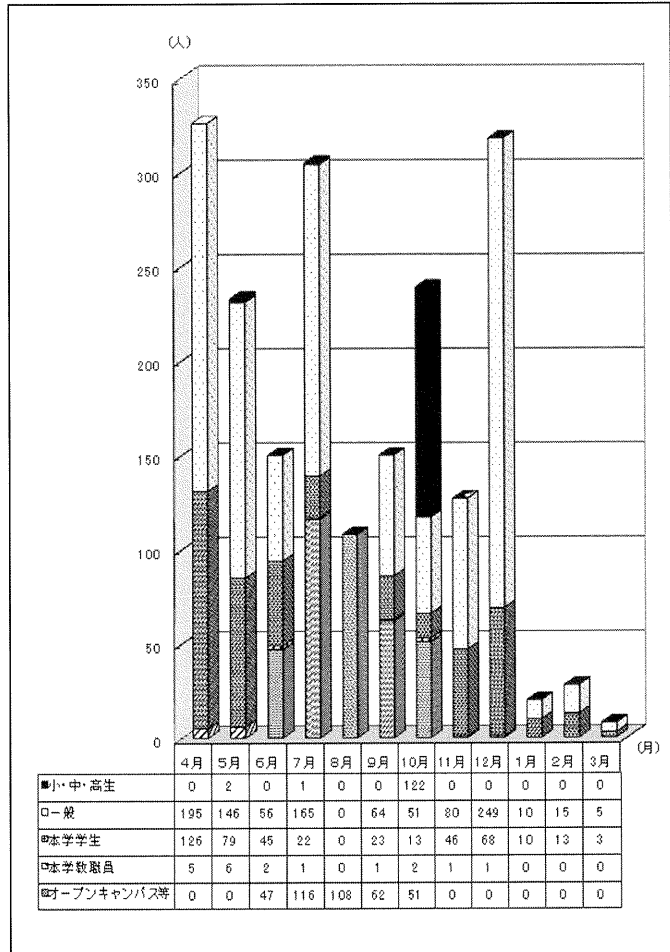


表 平成22年度月別入館者数

(2) 出版

本年度は、以下の出版物を刊行した。

- ・立正大学博物館報『万吉だより』第13号
- ・立正大学博物館報『万吉だより』第14号
- ・立正大学博物館年報 第8号
- ・館蔵資料「基礎」文献第6輯『青山顕彰コ

レクション』

- ・第7回企画展『古代・中世の武蔵国の骨蔵器』展示図録
- ・第7回特別展『群集墳の時代～野原古墳群～』展示図録

(3) 資料活用

当館所蔵の資料を以下の博物館に貸出した。

- ・平成22年4月4日（日）～5月31日（月）
横浜市歴史博物館
吉田格コレクション20点（骨角器）

- ・平成22年9月25日（土）～12月31日（金）
埼玉県立歴史と民俗の博物館
新久窯跡出土鎧瓦6点
新久窯跡出土宇先瓦6点

(4) 常設展示・企画特別展示

1. 常設展示

ー第1展示室(1F)ー

眞鍋孝志氏(日本古鐘研究会会長)より寄贈されたアジア諸地域の梵音具を中心とする撫石庵コレクションおよび立正大学考古学研究室が1958年～1980年にかけて文部省(現文部科学省)の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示されている。

この他に、旧石器時代の資料として北海道白滝遺跡・報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品が展示され、縄文時代では埼玉県石神貝塚、古墳時代では埼玉県野原古墳群の出土資料を展示している。

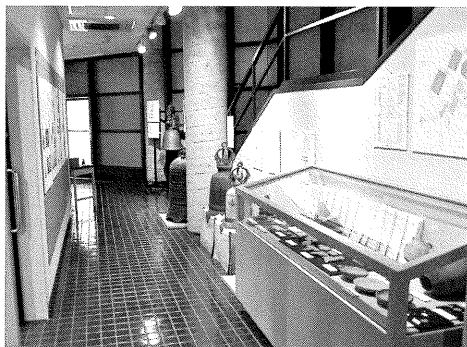
また、熊谷キャンパスにおける施設の新築などに際して、法(文化財保護法)によって定め

られた遺跡の発掘調査を実施しており、その折、発掘された資料を展示している。

古代から近世にかけては、千葉県九十九坊廃寺・長熊廃寺跡出土品、神奈川県下出土火葬骨蔵器、板碑、東京都増上寺徳川將軍家関係墳墓出土の一字一石経などを展示している。

撫石庵コレクションは、日本をはじめ、朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵音具(鐘・鐃)のほか、金銅釈迦如来立像などが展示されている。

とくに、伝櫃原市出土の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として10指に入るもので、極めて貴重な資料である。この伝櫃原市出土鐘を復元した鐘が新たに寄贈された。



エントランス展示状況



第1展示室東側展示状況



第1展示室西側展示状況



新久窯跡展示状況

ー第2展示室（2F）ー

吉田格コレクション、樺太出土資料、ネパール・ティラウラコット出土資料を展示している。

吉田格コレクションは、吉田 格氏（立正大学専門部地歴科・昭和16(1941)年卒・平成18年没）寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式土器、後期の称名寺式土器は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。

とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料（鹿角）は縄文文化の研究上、きわめて重要な資料である。

また、本草学者・伊藤圭介（日本最初の理学博士）蒐集の石器は『日本産物誌』明治9（1876）年に収められているものであり、嘉永5（1852）年の箱書きを持つ収蔵箱に収納されている石器とともに、極めて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。

樺太出土資料は、久保常晴氏（元本学名誉教授）寄贈のコレクションで、同氏が1930年代に樺太の地を踏査された際に収集されたものである。樺太出土資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。

ネパール・ティラウラコット出土資料群は、1967年～1977年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘された資料であり、とくに日・ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。

ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城ーカピラ城跡の有力な比定遺跡として世界の学界に知られていた。その地を10年間にわたって発掘調査した結果、カピラ城跡の最有力遺跡として注目されるにいたっている。

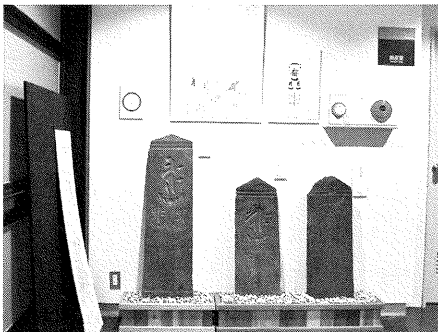
東西約400m、南北約480mの方形の城跡内に7つの遺丘が存在し、そのうちの2箇所を発掘して得られた資料である。



第2展示室西側展示状況



第2展示室東側展示状況



2階展示室入口石碑展示状況



第1展示室東側展示状況

2. 企画・特別展示

第7回企画展

「古代・中世の武蔵国の骨蔵器」

- ◆期間：平成22年7月1日(木)～7月31日(土)
- ◆内容：平成22年7月1日(木)～31日(土)にかけて、第7回企画展「古代・中世の武蔵国の骨蔵器」を開催しました。

立正大学博物館の第1展示室の常設展示に古代の骨蔵器3点と中世の骨蔵器1点が展示されています。今回の企画展では、この骨蔵器にスポットをあて、古代・中世の武蔵国（現埼玉県・東京都・神奈川県の一部）における骨蔵器の広がりについて見ていきました。

立正大学博物館所蔵の骨蔵器は4点あり、内3点は古代の骨蔵器で、神奈川県川崎市より出土したものです。残る1点は中世の骨蔵器で千葉県八日市場市にある塚原古墳群の墳丘中から出土したものです。

古代の骨蔵器3点のうち、2点は川崎市宮前区有馬から出土したものです。1点はいわゆる武蔵甕といわれる古代の土師器甕を転用したものです。もう1点は長胴で全体的に丸く膨らんだ土師器甕を転用したものです。その他の1点は同じく宮前区の梶ヶ谷から出土したものです。これは一般的な土師器甕を転用したのではなく、おそらく骨蔵器のために造られたと考えられるものです。

また、中世の骨蔵器は、常滑焼の甕を転用したものです。頸部のところで意図的に打ち欠いています。

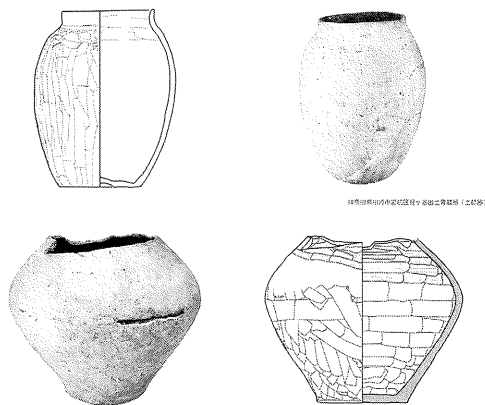
その他に古代の骨蔵器の例として、埼玉県川口市の叭原遺跡、埼玉県深谷市の宮林遺跡、埼玉県東松山市の児沢北遺跡を紹介しました。

また、中世の骨蔵器のその他の事例として、

立正大学博物館 第7回企画展

古代・中世の武蔵国の骨蔵器

平成22年7月1日(木)～7月31日(土)



講演会

「武蔵国における古代・中世の墓と骨蔵器」

講師 渡辺一氏（大東文化大学非常勤講師）

日時：平成22年7月24日(土)

13時～14時30分

場所：熊谷市中央公民館

交通案内：裏面地図を参照下さい。

開館時間：10時～16時 入館料：無料

休館日：火・日・祝日、大学休業日

場 所：立正大学博物館1F

お問い合わせ

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL: 048-536-6150 / Fax: 048-536-6170

E-mail: museum@ris.ac.jp

URL: <http://www.ris.ac.jp/museum/>

協力 熊谷市中央公民館

第7回企画展 チラシ

埼玉県行田市の築道下遺跡、埼玉県上尾市の西通Ⅰ遺跡、埼玉県熊谷市の合羽山遺跡、栃木県足利市の宿居館跡を紹介しました。

企画展の関連事業として7月24日(土)に「武蔵国における古代・中世の墓と骨蔵器」と題して渡辺一氏（大東文化大学非常勤講師）に記念講演会を行っていただきました。今回の記念講演会は熊谷市中央公民館の協力を得て、学外での講演会を行いました。

また、大崎キャンパスの移動展示（パネルによる企画展の紹介）を9月18日(土)～10月16日(土)に行いました。あわせて記念講演会を10月2日(土)に「南武蔵における古代火葬墓の展開」と題して村田文夫氏（昭和39年度立正大学卒業生）に講演して頂きました。

第7回特別展

「群集墳の時代～野原古墳群～」

◆期間：平成22年11月29日(月)～12月25日(土)

◆内容：平成22年11月29日(月)～12月25日(土)にかけて、第7回特別展「群集墳の時代～野原古墳群～」を開催しました。

野原古墳群は、現在東京国立博物館に収蔵されている“踊る埴輪”の出土古墳として著名な古墳群で、埼玉県熊谷市の南端、和田川に南面する標高45～50mの江南台地縁辺に所在します。昭和37(1962)年に採土工事に伴う発掘調査で前方後円墳1基が調査されています。この前方後円墳で昭和5年、開墾中に“踊る埴輪”が出土したと伝えられています。この古墳は全長40m、後円部径16m、高さ5mの規模で、後円部と前方部に凝灰岩の切石を用いて横穴式石室を構築した古墳であることが確認されています。

その後、熊谷キャンパス開設に先立ち、立正大学考古学研究室により昭和39(1964)年に野原古墳群中の8基が発掘調査されました。平成21年3月に立正大学博物館より『館蔵資料「基礎文献」叢刊第5輯 埼玉県熊谷市野原古墳群発掘調査報告』として報告されました。今回の特別展では、立正大学博物館所蔵および熊谷市教育委員会所蔵の野原古墳群出土品を中心に、埼玉県の群集墳について紹介しました。

群集墳とは、古墳時代後・終末期(5世紀後半～7世紀代)に小形円墳を主体に群集して造営される古墳群のことをいいます。今回の特別展では、群集墳における群構成に着目し埼玉県内および近隣における代表的な群集墳につい



第7回特別展 チラシ

てみていきました。取り上げた遺跡は、野原古墳群(埼玉県熊谷市)・立野古墳群(埼玉県熊谷市)・鹿島古墳群(埼玉県深谷市)・新屋敷古墳群(埼玉県鴻巣市)・黒袴台遺跡古墳群(栃木県佐野市)・足利公園古墳群(栃木県足利市)です。

特別展の関連事業として12月11日(土)に「埼玉の群集墳」と題して大谷徹氏(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団)に記念講演会を行っていただきました。

また、大崎キャンパスの移動展示(パネルによる特別展の紹介)は平成23年1月6日(木)～29日(土)にかけて、大崎キャンパス5号館1階において行いました。

(5) 調査・研究

Ⅰ. 近世石造物資料調査

1、資料調査

平成22年7月11・18日(日)・19日(月)の延3日間にわたり、熊谷市小島に所在する医王寺において、近世墓石を主とする石造物調査を行った。

博物館の目的の一つである資料収集の実践として、昨年度から館務実習の項目に組み込んだものである。

平成22年度の調査地は、熊谷市小島(旧妻沼町)に所在する高野山真言宗の医王寺である。

本堂西側に墓地が広がり、南西側に地藏堂がある。今回の調査では、この地藏堂に埋納されている地藏菩薩の調査を行った。

地藏堂には246体の石製の地藏と2体の木製の阿弥陀立像がある。堂奥の両側に3段の棚が設けられ各棚にも地藏が並べられている。調査は個々の大きさなどを計測し、台帳カードに記録し、写真撮影を行うことをした。

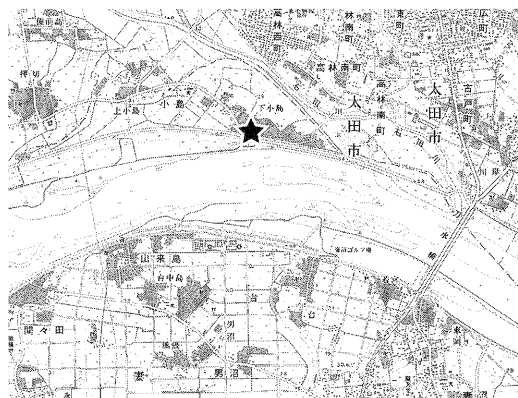
堂内の地藏は、大別して光背がつく型式のものと光背のつかない肉彫りの型式に分けられる。細別すると光背が付く型式のものは、4種類、光背が付かないものは3種類の型式に分類できる。以下に分類ごとに詳細を報告する。

1a…光背が頂部で丸みをもって、尖頂部を前面に突出させて尖らせるものである。下部に台座部分を明確に表出する。

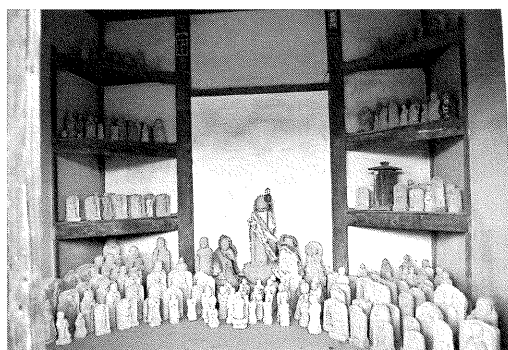
1b…1aと同じだが尖頂部が前面に突出せず平面形のものである。下部台座部分は明確に表出される。

1c…光背が頂部で三角形を呈し、尖頂部は前面に突出しないで平らなものである。下部に台座部分を明確に表出する。

1d…光背が舟のような形で頂部に向かって



医王寺位置図



医王寺地藏堂内地蔵奉納状況

尖がるものである。下部の台座部分は明確に表出されない。

2a…光背が付かず、肉彫りされた状態の地藏である。腹部あたりでやや括れ、腕のところで最大幅を呈する。台座部分は明確に表出されるものとされないものがある。

2b…台座部から肩部まで同一の幅で作られており、基本的に右手に杓丈、左手に宝珠を持つものであるが、合掌印を結ぶものもある。台座部分は明確に表出される。

2c…台座部から肩部に向かって三角形を呈するもの。台座部分は明確に表出される。

以上7型式についてみてきたが、この他に堂内中央に置かれている台座と本体が別々に作



られているものが3体、唯一坐像で現されているものが1体ある。この中で最も多くみられるのは2a型式のもので、246体中117体である。次に多く見られるものは、1a型式のもので69体である。3番目に多く見られるものは2b型式のもので27体、それ以下は1c、1d型式が6体ずつ、1b型式が5体、2c型式のものが3体である。

地蔵本体は基本的に合掌印を結ぶが、2a型式の中には左手に宝珠を持っているものも弱冠みられる。

分類した7型式の中で大きさをみると、全体的に平均、高さ20cm、幅8.9cmぐらいである。最小のもので高さ12.5cm、最大のもので37.0cmである。また、石材は、安山岩製のものと砂岩製のものが大半である。

時代が判別するものは、地蔵堂の中央に安置してある総高53.0cmの享保9(1724)年銘のものと、1c型式のもので「明治十七／十二月吉日」(左側面)「押切／萩原みつ」(右側面)と刻書されるもの、1d型式のもので「大正十四年」(左側面)「奉納願主小林竹次郎」(右側面)と墨書されるものの3体のみである。その他の地蔵については銘はあるものの年号があるものは確認出来なかった。

また、1体だけ木製の厨子に納められているものがあり、その木製の厨子の底部に「明治十七年／九月号辰／小島村大工／萩原直衛造之」と墨書されるものがある。地蔵と厨子を同時期に造ったものか不明である。

これらの年号から少なくとも享保9年から大正14年ごろまで地蔵が奉納されていたことがわかる。この他に銘が書かれているものは、奉納者の名前と町村名が書かれている。

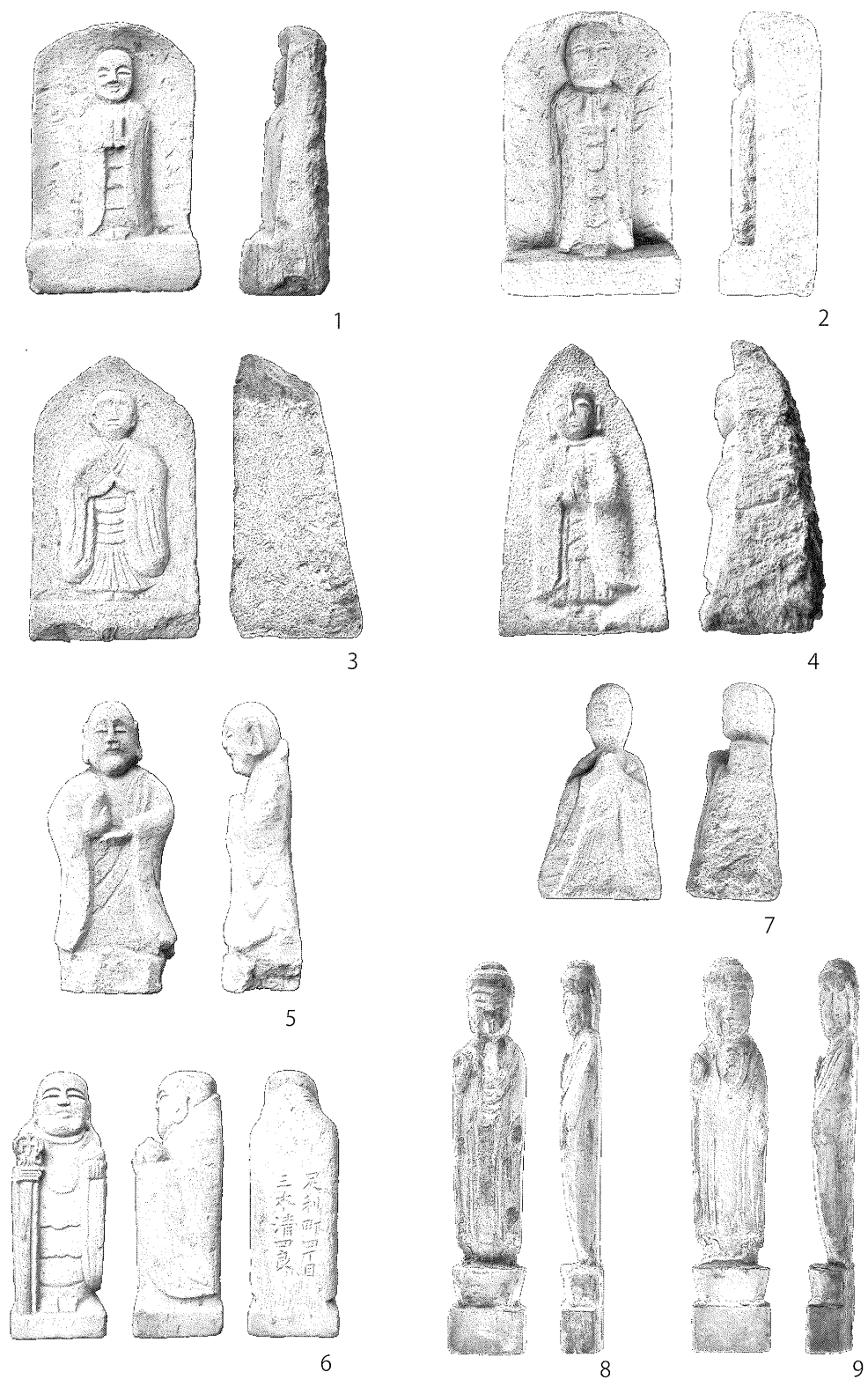
この他に厨子の側に木製の阿弥陀立像が2体置かれていた(第1図8・9、写真8・9)。

8の大きさは、総高14.8cm、幅2.8cm、厚さ1.5cmである。台座部分は高さ1.7cm、幅2.8cmの長方形の上に、高さ1.5cm、幅2.8cmの逆台形の2段の台座を表出する。台座上に高さ11.6cm、幅2.7cmの阿弥陀像が表出されている。9の大きさは、総高15.2cm、幅2.9cm、厚さ1.7cmである。台座部分は8と同じく、高さ1.7cm、幅2.7cmの長方形の上に、高さ1.4cm、幅2.9cmの逆台形の2段の台座が表出されている。その上に高さ12.1cm、幅2.9cmの阿弥陀立像が表出されている。

2体とも剥落などが著しいが、9の唯一残存する左手から印相をみると、施願印と考えられ、同一の阿弥陀立像と考えられる。また、2体とも金箔の痕跡がみられる。紀年銘などは特に無く、時期は不明である。

以上のように熊谷市小島にある医王寺地蔵堂の調査を行ってきたが、紀年銘が残るものが僅かであり、どのようにして奉納されてきたかは不明であるが、ご住職の話によると地蔵を彫る講習会のようなものを行っていたことを昔聞いたことがあると話されており、今回の調査の中でも地蔵の造形が粗雑なものもあり、比較的新しい時代のものが多いと思われる。また磯野治司氏は、熊谷市弥藤吾の年代地区に所在する6体の光背形地蔵について報告しており(「弥藤吾年代の中世石仏」『熊谷市史研究』第2号平成22年)、中世末～近世初期におけるもので、特徴的な堂形の石造物、いわゆる石殿とよばれるものに納入された可能性がある」と指摘している。また江南地域には千体仏の事例もあり、今回の調査資料は、当該地域における地蔵信仰のあり方的一端について参考になる資料群である。

(立正大学博物館学芸員 内田)



第2図 医王寺地藏堂地藏写真（1～7）及び木製観音立像写真（8・9）

2 熊谷市域における廟墓の調査

池上 悟（博物館館長）

1

博物館館務実習に伴う「資料収集実習」として熊谷市域における近世墓石調査を実施しており、平成 22 年度は 2 年目であった。

平成 21 年度は、熊谷市域における近世墓石の総体変遷を確認するために、真言宗の長慶寺と、曹洞宗の常楽寺という異なる宗派の寺院境内に形成された墓地の墓石変遷を確認した。

その結果は、寺院境内に形成された墓地における個別墓石の変遷は、宗派の相違を反映するものではなく、地域の特徴を明示する点が明らかになった。すなわち宝永・正徳・享保年間である、西暦 1700～1720 年代以降に縦長直方体の墓標が普及し、頂部の形状を変化させながら明治時代に至る点が明確となった。墓標は本体の幅と奥行きが等しい方柱状のものと、幅の半分ほどの厚さの方形状のものに区分でき、頂部の形状により細分される。

南関東地域に一般的な墓標の変遷は、17 世紀の後半以降に円頂方形→→円頂方柱→→尖頂方柱→→突頂方柱と変遷して幕末に至るものである。熊谷市域においてはこの変遷に対して、円頂方柱型式に代わって、頂部を平坦とし角を僅かに円くした平頂方柱型式が定型化し、他型式を圧倒して幕末に至る状況を確認できた。

西暦 1700 年以前の寛文～元禄年間に主体的に造立された墓石は、表面の如何に係わらず背面を舟底状に丸く仕上げる特徴を有している。これは表面に観音像・地藏像などを陽刻する像容類と、上部を突出させて下部を窪めて戒名を刻んだ光背形に区分できる。

2 箇所の寺院境内墓地に確認できた 17 世紀代に特徴的な墓石型式は、江戸時代初頭に新た

に創出された墓石型式としての光背形である。

この光背形の墓石は、三河以東の東国に主体的に分布するものであり、畿内以西の西国には分布は稀薄である。江戸時代の初期の西国では、戦国時代以来の系譜を有する地域に特徴的な墓石が展開しており、長大な板碑形のほか、墓塔類である五輪塔・宝篋印塔、さらには塔形を縦長の一石で表した一石五輪塔、一石宝篋印塔などが主体的に展開している。

関東地方においても類似した様相が確認される。戦国時代に特徴的な墓塔を造立していた地域では、東国型式としての光背形墓石の普及が稀薄となっている。

さらに、東国における戦国時代以来の系譜が辿れる特徴的な墓石としては、いわゆる「廟墓」の存在が知られる。廟墓は、古く中世以来の系譜の想定されるものであり、箱形の本体に屋根を伴う家屋構造を呈するものである。すなわち廟墓は死者の靈魂の住まいであり、箱形の本体の中には死者の靈魂の憑代としての小形の墓塔類などが納められ、本体の表面には供養対象者の戒名、没年などが刻まれており、遺存状態の良好な場合には墨書による記載を認めることができる。すなわち廟墓は、詣り墓としての機能を有したものと考えることができる。

一方、17 世紀以降に普遍化した墓標は表面に供養対象者の戒名・没年などを表す点は同様であるが、墓標内部を刳り込むことなく死者の靈魂の憑代とはなっていない。しかし、多くは埋め墓ではなく詣り墓に造立された点は類似する。個別墓地における憑代の造作は、寺院における位牌堂の普及により衰退したものであろうか。

関東地方における廟墓は、北関東地域と東関東地域に顕著な分布が確認されており、特に上野地域と房総地域北東端の銚子周辺地区において特徴的な構造の廟墓が展開している。

廟墓の表面には戒名・没年などを表しているが、正面を大きく開口することなく幅 10 cm 程度の長方形を基本とする孔を下部に開け、上部には長方形・円形・心葉形などの小孔を穿って地区的特徴を表している。

大形の廟墓は、幅 100 cm ほどの方形の本体に、四方から棟を中央に寄せ頂部に宝珠を載せる宝形造りの屋根を伴っている。また四十九院塔と称される場合には、本体の外壁に四十九本の塔婆形を表しており、上野地域に安山岩を用いた大形製品が特徴的に分布している。

四十九院とは弥勒菩薩の住する兜率天浄土の内院を表すものとされており、四十九院塔は弥勒信仰に基づく浄土思想を反映したものと考えられている。

西方阿弥陀浄土ではなく、北方弥勒浄土往生を希求する信仰は、古く平安時代の 10 世紀代に始まった経塚信仰が古い。600 年を経て江戸時代にまで継続した信仰を物語る資料としての四十九院塔の存在である。

一方、房総北東地区では、銚子に産出する銚子砂岩を石材として用いた廟墓が、天正年間以降に確認でき、江戸中期の享保年間に至るまで地域の特徴を顕示している。

箱形の本体の上には寄棟平入り形状の屋根を乗せており、本体正面には特徴的に鳥居形を表している。また 2 層・3 層の層塔型式の廟墓の存在が特徴となっている。

熊谷市域においては、広く全域において廟墓の存在を確認することができ、市域北部を中心とする 13 箇所の寺院境内墓地において紀年銘

を有する資料を認めることができた。

13 箇所の墓地で確認できた紀年銘資料は 18 例であり、江戸初期の寛永年間から、中期の宝永年間に至るものである。

このうち最古の寛永 5 (1628) 年の紀年銘を確認できるのは、太田神社背後の塚上に他所から持ち込まれて安置されている資料である。

幅 55 cm、高さ 53 cm の箱形の本体外面には、薄い刻みではあるが四十九本の塔婆形を表しており、弥勒信仰に基づく四十九院塔であることが知られる。正面下部には 10 cm 四方の孔を開け、上部には長方形の孔を 2 段に 6 個並べて穿っている。屋根は高さ 57 cm の平入りの寄棟構造であり、軒裏には細かな垂木を表現している。高さ 18 cm の基礎の正面には 5 段の階を表しており、霊魂の出入り口を明確としている。

類似した四十九院塔は、東漸寺に知られる。幅 51 cm、高さ 46 cm の箱形の本体外面には四十九本の塔婆形を表しており、四十九院塔であることが知られる。正面には左右に 3 本ずつ 6 本の塔婆形を表し、中央下部に幅 7 cm ほどの方形の開口部を穿ち、上部には小形縦長長方形を 3 箇所並列して開口している。屋根は総高 65 cm の宝形造りであり、日月を表した露盤の上に宝珠を乗せるものである。厚さ 12 cm の基礎の正面には幅 12 cm の 3 段の階が表されている。

廟墓本体の外壁に塔婆形を表して四十九院塔とする資料は、小形化した平入り寄棟造りの屋根を伴う西光寺所在資料も知られるが、紀年銘は確認できない。本体幅 29 cm、総高 56 cm の屋根が低い形態を呈しており、厚さ 10 cm の基礎には 3 段の階を刻んでいる。本体正面には、下部に方孔、中位に小形縦長長方形 3 個並列、上部には日月を穿孔している。相対的に古例として認識でき、寛永に続く正保・慶安年間頃の

造立と想定することができよう。

宝形造り屋根の供養塔の類例は、小形化したものであるが、玉井寺と高柳地藏堂に所在する十王信仰に基づく十王供養塔と呼称されるものであり、ともに熊谷市指定文化財となっている。

高柳地藏堂の十王供養塔は、幅 27 cm、高さ 30 cm の本体の上に、高さ 41 cm の宝形造りの屋根を乗せている。本体正面下部に方孔を穿ち、上部に小孔を 2 個並列している。正面傍らに立像 1 体を表し、外側 2 面には上下 2 段に座像 6 体を表している。寛文 2 (1662) 年に故人の追善供養として造立されたものである。

玉井寺に所在する十王供養塔も同様の構造を呈するものであり、寛文 11 (1671) 年の紀年銘を有している。

観音寺境内墓地に所在する貞享 3 (1686) 年の紀年銘を有する資料も、宝形造りの屋根を伴うものである。本体は幅、高さとも 35 cm、屋根の軒幅 43 cm、総高 56 cm ほどの規模であり、本体正面に縦長長方形の孔を並列して穿っている。類例の少ない宝形造り屋根を伴う資料の年代的下限を明示するものである。

以上に概要を記した以外の造立年代の確認できる廟墓は、すべて箱形本体の幅・高さ 25 ～ 30 cm、総高 58 ～ 68 cm ほどの規模の、平入り寄棟造りの屋根を伴う廟墓である。

このうち最古の年代が確認できたのは西福寺の承応 3 (1654) 年の紀年銘を有する資料である。本体幅 27 cm、高さ 32 cm、基礎を除く総高 74 cm を測るものである。本体正面下部には方孔、上部には逆心葉形を穿孔しており、厚さ 12 cm の基礎には 3 段の階を刻んでいる。

臨済宗の玉洞院墓地では、寛文 10 (1670) 年、貞享 4 (1687)、宝永 4 (1707) 年の 3 例が確認できる。これら 38 年に及ぶ造立年代幅に

も係わらず、3 基の廟墓の形状はほぼ等しい。

本体幅 25 cm、高さ 32 cm、屋根の軒幅 40 cm、屋根の高さ 26 cm、総高 58 cm ほどで類似しており、本体正面には下部に 1 方孔を穿つのみである。多くの類例では上部にも小孔を穿っているが、1 墓地における単純類例の集合は、出入り石工による特定型式の継続的製作を物語るものといえよう。

福寿院墓地における寛文 6 (1666) 年と寛文 7 年の 2 基も酷似する形態である。総高は 65 cm と一致しており、本体正面には下部に方孔、上部に逆心葉形を穿孔する点も等しい。

曹洞宗の瑞林寺においては 2 基の紀年銘資料が確認できた。寛文 4 (1664) 年と宝永 6 (1709) 年の資料である。寛文 4 年例は、総高 68 cm であり、本体正面下部に方孔、上部に品字形に小方孔を並べる。これに対して宝永 4 年の地域最新事例は、総高 64 cm の本体正面の下部に方孔、上部に縦長長方形小孔を 3 個並列させている。46 年間における変容として理解できよう。

3

以上、熊谷市域で確認できた廟墓の様相は、大きくは 3 区分できる内容を明示している。

①は江戸時代初頭の寛永年間に波及した弥勒信仰に基づく浄土往生を希求する信仰であり、大形の本体外面に四十九院を表す塔婆形を刻むものである。上野方面からの波及と想定できる。

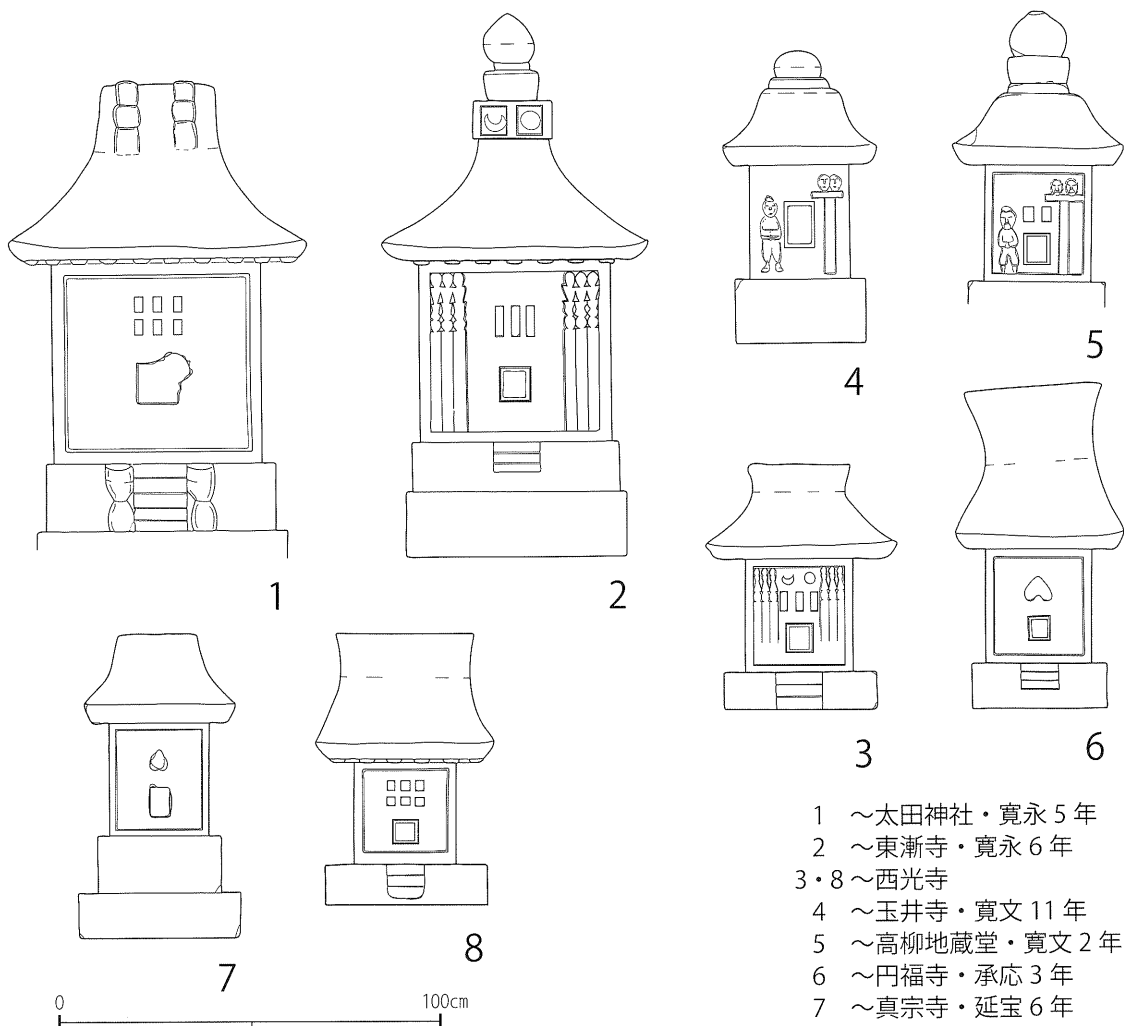
②は小形の宝形造り屋根を伴う、死者の審理を行う十王信仰に基づく十王供養塔であり、十王ないしは十三仏の像容を表している。寛文年間に限定された存在として確認できる。

③は平入り寄棟造りの屋根を伴う小形廟墓であり本体幅 1 尺、屋根を含めた総高が 2 尺程度に企画化されている。

西暦 1700 ～ 1720 年代以降には、縦長の墓 東日本型式である光背形墓石とともに主要墓石
標が普遍化しており、廟墓はこれ以前において、 として造立されたことを確認できた。

熊谷の廟墓

寛永	5：太田神社・1628	6：東漸寺・1629
承応	3：円福寺・1654	
寛文	2：高柳地蔵堂・1662	4：瑞林寺・1664
	7：福寿院・1667	6：福寿院・1666
	10：玉洞院・1670	9：能護院・1669
延宝	11：玉井寺・1671	
	6：福生寺・1678	6：真宗寺・1678
貞享	7：西光寺・1679	7：能護院・1679
宝永	3：観音院・1686	4：玉洞院・1687
	4：玉洞院・1707	6：瑞林寺・1709



(6) 教育 普及

1. 館務実習

平成 22 年度の館務実習を下記の日程で延 7 日間行った。野外実習を館長池上悟・学芸員内田勇樹で行い、館内実習は、文化史講演を井上尚明氏（埼玉県立歴史と民俗の博物館）に、刀の取扱いを田嶋和久氏（文学部准教授）に、自

然史講義を島津弘氏（地球環境科学部教授）に、それ以外の実習を学芸員内田勇樹が行った。

実習生：8 名（文学部史学科 6 名、地球環境科学部環境システム学科 2 名）

(実習内容)

▼ 7 月 7 日（水）

野外実習事前講義

館長池上悟による野外実習の事前講義

▼ 7 月 11 日（日）、18 日（日）、19 日（月）

野外実習（熊谷市小島 2770 医王寺にて）

3 回のうち 1 回の出席。

▼ 8 月 30 日（月）～9 月 3 日（金）

館務実習

・8 月 30 日（月）

・午前；文化史講義（埼玉県立歴史と民俗の博物館 井上尚明氏）

・午後；刀の取扱（文学部社会学科 田嶋和久先生）

・8 月 31 日（火）

資料の取扱（写真撮影）

・9 月 1 日（水）

資料の取扱（資料台帳作成）

・9 月 2 日（木）

資料の取扱（梱包実習）

・9 月 3 日（金）

自然史講義（地球環境科学部 島津弘先生）



野外資料収集実習の調査風景



刀の取扱の実習風景

2. 土器焼き

平成 22 年度の文学部史学科考古学専攻の考古学実習（4 年生対象）において、土器作りを行い、土器の焼成場所として熊谷キャンパスで行うということで、博物館が協力しました。

11 月 6 日（土）・7 日（日）にかけて行い、焼成は野焼きと覆い焼きを行いました。考古学実習担当の竹花宏之先生（文学部非常勤講師）の指導の下、6 日（土）に事前準備を行い、7 日（日）に土器焼成を行いました。実習生は 6 人で、それぞれ高さ 30cm 程度の縄文土器を 1 点ずつ製作しました。また、補助として参加する大学院生も土器師の坏や縄文土器を作成し合計 20 点ほどの土器を焼成しました。焼成する点数が少ないこともあり、焼成用の穴は径 180cm 程度の野焼き用のものと径 120cm 程度の覆い焼き用の 2 種を用意しました。6 日は穴の準備と覆い焼き用の藁灰を作成し作業を終えました。

7 日は、まず野焼きの火床を作りながら覆い焼きの準備を進め、覆い焼きのほうを最初に行いました。資材は、藁・薪（校地内の枯れ枝など）を各軽トラック 1 台分用意し、薪とは別に赤松材を購入しました。

覆い焼きは、薪などの上に土器を並べ、その

上から藁・萱などで全体を覆い、藁灰を全体に被せて 14 時間ほど燃焼させる方法です。

野焼きは、火床を製作し温度が上昇したところで土器を並べ、薪をくべながら焼成していきます。最後に藁・萱などで炭化物を焼き払い仕上げます。

火床を作っている間、火床の周辺に土器を並べ徐々に焼成していきます。

午前 8 時より作業を開始し、野焼きは午後 2 時ごろに終え、覆い焼きを 5 時ごろに終えました。覆い焼きは通常 14 時間前後の焼成が必要ですが、今回は日程の都合などにより 9 時間で焼成を終わらせたので、焼成時間の不足と温度があまり上がらなかったこともあり上手く焼成できませんでした。

野焼きで焼成した土器は、火床に並べてから 2～3 時間で完成し、破損なども無く焼成できました。

今年度から始まった土器製作ですが、なかなか上手い具合にいかないところもあり、次年度以降に改善していきたいと思います。

また、資材において藁を提供して頂いた上山氏にこの場をかりてお礼申し上げます。



野焼き焼成風景



考古学実習生

Ⅲ. 受贈図書目録 (2010年4月～2011年3月)

〈青森県〉

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書

第103集 市内遺跡発掘調査報告書 18

第104集 長溜池遺跡発掘調査報告書

第105集 葛野(3)遺跡発掘調査報告書

八戸市教育委員会

・掘り day はちのへ 第13号

八戸市埋蔵文化財調査報告書

・第124集 八戸市内遺跡発掘調査報告書 27

・第125集 新井田古館遺跡・重地遺跡

・第126集 八戸城跡V

・第127集 湯ノ沢遺跡

・第128集 館平遺跡《第22地区》

〈宮城県〉

東北大学資料館

・東北大学史料館紀要 第5号

・東北大学史料館だより 第12号

東北学院大学博物館

・東北学院大学博物館年報 2009 年度

・モノが歴史を語りだす！－東北学院大学博物館常設展開設パンフレット－

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

・年報 1 2009 年度

〈福島県〉

福島県文化財センター白河館

・まほろん通信 Vol.34～39

〈茨城県〉

取手市教育委員会

・第28回企画展ふりかえる取手の現代－取手市の誕生から発展の未来へ－

〈栃木県〉

財団法人とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化センター

・(財)とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化センター年報 第20号

・どき土器体

栃木県埋蔵文化財センターだより やまかいどう

・2009 11月

・2010 2月

・2010 6月

とちぎ発掘調査成果情報誌

・No.21～23

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

・第24回秋季特別展 ムラから見た古墳時代Ⅱ－古墳時代中期・後期を中心として－

・栃木県立しもつけ風土記の丘資料館年報 第24号(平成21年度)

栃木県立なす風土記の丘資料館

・第18回企画展 那須のゆりがね

壬生町立歴史民俗資料館

・しもつけ古墳群

〈群馬県〉

安中市学習の森 安中市ふるさと学習館(歴史博物館)

・西上州の中世

群馬県教育委員会

・群馬県伊勢崎市香林町 道上遺跡

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

・研究紀要 28

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書

・第480集 白井西伊熊遺跡－旧石器時代編－

・第481集 大道東遺跡(2)－弥生時代以降編1－

・第482集 中郷遺跡(2)－旧石器・縄文時代編－

- ・第 485 集 峰山遺跡Ⅱ（古墳時代以降編）
- ・第 488 集 横壁中村遺跡（10）－古代・中世・近世編Ⅰ－
- ・第 489 集 西野原遺跡（5）（7）第 2 分冊－飛鳥・平安時代以降編－
- ・第 490 集 西長岡宿遺跡（1）（弥生時代以降編）
- ・第 491 集 八ヶ入遺跡－旧石器編－
- ・第 492 集 横壁中村遺跡（11）－縄文時代の列石・配石遺構－
- ・第 493 集 米山遺跡
- ・第 494 集 富田高石遺跡
- ・第 495 集 箱石浅間山古墳・不動山古墳
- ・第 496 集 鹿島浦遺跡
- ・第 497 集 上江田西田遺跡源 6 堰遺跡
- ・第 498 集 下栗須伊勢塚遺跡

高崎市観音塚考古資料館

- ・第 22 回企画展 古墳時代後期中型古墳の埴輪群像－高崎市吉井町中原 1 号墳－

〈埼玉県〉

朝霞市博物館

- ・朝霞市博物館活用授業実践事例集Ⅴ
- ・朝霞市博物館研究紀要第 12 号
- ・第 25 回特別展 絵で遊ぶ絵が遊ぶ～ゲームもニュースも浮世絵で～

入間市博物館

- ・入間市博物館所蔵資料目録 煎茶道具・煎茶史関連資料コレクション
- ・アリットフェスタ 2010 特別展 野生植物が語る武蔵野の景観
- ・NEWS-ALIT 第 51 ～ 54 号

桶川市教育委員会

- ・平成 21 年度桶川市内遺跡発掘調査報告書
- ・宮ノ脇遺跡 第 1 次発掘調査報告書

春日部市教育委員会

- ・春日部市庄和町史編さん資料（17）石造物Ⅱ－川辺・富多・宝珠花・桜井地区の調査－

春日部市遺跡調査会報告書

- ・第 10 集 貝の内遺跡 8.13.18 次地点 陣屋遺跡 8 次地点 中屋舗遺跡 1 次地点
- ・第 20 集 貝の内遺跡 4 次地点
- ・第 21 集 貝の内遺跡 12 次地点

春日部市郷土資料館

- ・第 41 回 俳人 加藤楸邨と粕壁

神泉村遺跡調査会

神泉村遺跡調査会文化財調査報告書

- ・第 1 集 飛来遺跡発掘調査報告書－A～E 地点の調査－
- ・第 2 集 東山遺跡発掘調査報告書
- ・第 3 集 林遺跡発掘調査報告書
- ・第 4 集 池尻遺跡発掘調査報告書

神川町教育委員会

神川町埋蔵文化財調査報告

- ・第 3 集 中道遺跡第 13 地点
- ・第 4 集 中道遺跡第 19 地点

川口市立科学館

- ・平成 21 年度年報

川越市立博物館

- ・川越市立博物館収蔵文書目録（11）諸家文書
- ・博物館だより 第 59 ～ 61 号
- ・開館 20 周年記念特別展 知恵伊豆 信綱－松平信綱と川越藩政－
- ・第 34 回企画展 よみがえる河越館跡 国指定史跡河越館跡の発掘－その成果と課題
- ・川越市立博物館 20 年のあゆみ

騎西町教育委員会

騎西町遺跡調査会報告書

- ・第 5 集 騎西城跡第 5 次・6 次発掘調査報告書
- ・第 6 集 騎西城武家屋敷跡 第 40 次発掘調査報告書

熊谷市教育委員会

- ・第 20 回熊谷平和展－戦後 65 年－熊谷空襲とその時代展

・熊谷市史研究 創刊号・第2号

・BUNKAZAI 情報第4号

・籠原裏古墳群第11号墳

・宮下遺跡Ⅱ

・原谷遺跡、寺内遺跡10次、中島遺跡2次、
西遺跡3次、一本木前遺跡6次

・市内遺跡（大里町）Ⅱ箕輪遺跡4次、5次、
中廓遺跡3次、西浦遺跡 市内遺跡（旧江南
町）Ⅲ元境内遺跡4次、宮脇遺跡2次、諏
訪脇遺跡

熊谷市埋蔵文化財調査報告書

・第6集 西城切通遺跡

・第7集 前中西遺跡Ⅴ

熊谷市立熊谷図書館

・郷土の雄・熊谷次郎直実

・熊谷の発掘出土品展―地中からの息吹―

埼玉県立川の博物館

・かわはく No.37～38

・紀要 10号

・平成22年度特別展 葉 その形と利用

・平成22年度夏季企画展 カメ・カニ・スナ
～埼玉で海遊び～

・ボタニカルアート太田洋愛の桜原画展～荒川
ゆかりの桜を中心に～

埼玉県立歴史と民俗の博物館

・展示ガイド 歴民博 第425号

・THE A MUSEUM 埼玉県立歴史と民俗の博物
館だより第13・14号

・平成22年度要覧

・雑兵物語の世界

・仏教伝来 埼玉の古代寺院

埼玉県立自然の博物館

・ニュースレター 潯 第13号

・埼玉県立自然の博物館研究報告 第4号

埼玉県立さきたま史跡の博物館

・さいたま古墳群とその周辺「稻荷山」出現以

前の古墳

・館報 第5号

・紀要 第4号

埼玉県立嵐山史跡の博物館

・企画展示解説図録 秩父平氏 畠山重忠とそ
の時代

・埼玉の戦国城館跡―比企城館跡群を中心に―
（DVD）

埼玉県平和資料館

・埼玉県平和資料館だより Vol.17（通巻47号）

さいたま文学館

・館報 第13号

・埼玉ゆかりの歌人たち―明治・大正・昭和を
生きたアララギの歌詠み―

・収蔵品展 文学館に猫大集合

さいたま市立博物館

・第21回企画展 遺跡から見る奈良・平安時
代のさいたま―大久保領家遺跡と氷川神社東
遺跡―

・第34回特別展 さいたまの製糸

・さいたま市博物館研究紀要第9集

・平成21年度さいたま市立博物館年報

さいたま市立浦和博物館

・さいたま市立浦和博物館報 あかんさす
Vol.39-1 通号第100号

・平成21年度さいたま市立浦和博物館年報

幸手市教育委員会

・幸手市文化財だより第7号

・幸手市文化遺産調査報告書第6集 幸手の石
造物―八代地区②・上高野地区・補遺資料―

財団法人サトエ記念美術館

・青柳芳夫展～失われた時を求めて・少女群像
図鑑～

・斎藤与里展

白岡町教育委員会

白岡町埋蔵文化財調査報告書

- ・第 19 集 左衛門遺跡（第 2 地点）町内遺跡
群発掘調査報告書ⅩⅦ

白岡町遺跡調査会調査報告書

- ・第 8 集 タタラ山遺跡―第 4 地点―

学校法人 女子美術大学

- ・第 4 回「File?展」
- ・女子美 No.166・167
- ・平成 20 年度 女子美術大学美術館年報 第 7 号
- ・企画展 video exchange program「who you know? who knows you?」
- ・ポルトガル現代美術展―極小航海時代―
- ・CLOSET No.003

鉄道博物館（財団法人東日本鉄道文化財団）

- ・御料車～知られざる美術品～鉄道博物館開館
三周年特別企画展図録（企画展図録No.5）
- ・井上勝と鉄道黎明期の人々 鉄道博物館第 3
回コレクション展（コレクション展図録No.3）
- ・鉄道博物館展示車両図録―新幹線の誕生―“夢
の超特急”0 系新幹線（付属 DVD 付）

鶴ヶ島市教育委員会

鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告

- ・第 64 集 一天狗遺跡第 4・6・7・8・次
発掘調査報告書
- ・第 65 集 北権現遺跡第 6.7.10 次発掘調査報
告書

鉄道博物館

- ・鉄道博物館第 4 回企画展図録（企画展図録No.
4）雪にいどむ

戸田市立郷土博物館

- ・郷土博物館だより第 38 号
- ・博物館・自然学習センターを活用した事例集Ⅳ
- ・平成 22 年度夏季企画展 豊かな恵みと生き
ものたち
- ・第 26 回特別展 鍼・脈・薬～戸田の医療史～

日本工業大学工業技術博物館

- ・工業技術博物館ニュース No.75 ～ 77

蓮田市遺跡調査会

蓮田市遺跡調査会報告書

- ・第 31 集 荒川附遺跡―第 14 調査地点・第
16 調査地点・第 17 調査地点―
- ・第 47 集 山の内遺跡―第 4 調査地点― さ
らら遺跡―第 8 調査地点― さらら遺跡―第
9 調査地点― 宿上遺跡―第 17 調査地点―
附編黒浜貝塚周辺科学分析調査報告

鳩ヶ谷市立郷土資料館

- ・民俗関係資料目録 1 収蔵資料目録 1
- ・民俗関係資料目録 2 収蔵資料目録 3

羽生市教育委員会

- ・羽生市文化財調査報告書第 2 集 羽生市諸家
古文書目録Ⅱ

深谷市教育委員会

- ・深谷市指定文化財 柏合獅子舞（DVD）
- ・黒田ささら獅子舞 深谷市指定文化財（DVD）
- ・深谷の弥生時代～生活の道具と儀礼の道具～
深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・第 109 集 幡羅遺跡Ⅴ
- ・第 110 集 深谷城跡（第 14 集）
- ・第 111 集 幡羅遺跡Ⅵ―実務官衙域の調査
（3）・実務官衙域周辺の調査―
- ・第 112 集 熊野遺跡Ⅹ（第 132 次）
- ・第 113 集 猪山古墳群（5 号墳）
- ・第 114 集 幡羅遺跡Ⅳ
- ・第 115 集 塚原古墳群
- ・第 116 集 深谷市内遺跡ⅩⅦ（熊野 163 次）
- ・第 117 集 熊野遺跡ⅩⅠ
- ・第 118 集 下郷遺跡Ⅲ

富士見市立水子貝塚資料館

- ・平成 22 年度企画展 縄文人の装身具

富士見市立難波田城資料館

- ・平成 22 年春季企画展 富士見のみそ・しょうゆ

ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館

- ・第24回特別展権現山古墳群とその周辺

ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館・大井郷土資料館

- ・資料館通信 第63号
- ・川越街道と新河岸川～江戸と小江戸を結ぶ2つの道～

美里町教育委員会

美里町遺跡調査会報告書

- ・第8集 広木大町古墳群 後山王地区Ⅱ 後山王遺跡F地点

宮代町教育委員会

宮代町文化財調査報告書

- ・第14集 伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡 埋蔵文化財調査報告
- ・第15集 山崎遺跡・山崎山遺跡 埋蔵文化財調査報告
- ・平成22年度特別展 江戸時代の絵図

毛呂山町教育委員会

- ・毛呂山町史料集第7集 埼玉県入間郡毛呂山町 石造物悉皆調査報告書
毛呂山町埋蔵文化財調査報告書
- ・第23集 町内遺跡発掘調査報告書(7) 北山遺跡2次調査 久根下遺跡2次調査 東本遺跡1次調査

毛呂山町歴史民族資料館

- ・新毛呂山町史

立正大学大学院地球環境科学研究科オープンリサーチセンター

- ・立正大学 文部科学省学術研究高度化推進事業 オープンリサーチセンター(ORC)整備事業平成21年度事業報告書

奇居町教育委員会

- ・町内遺跡13東伴場地遺跡(第6次)東原遺跡(第2次)南飯塚遺跡(第1次)
奇居町遺跡調査会報告
- ・第33集 東伴場地遺跡(第7次)一塚越稻荷塚古墳一

吉見町教育委員会

吉見町埋蔵文化財調査報告書

- ・第8集 町内遺跡4

蕨市立歴史民俗資料館

- ・蕨市立歴史民俗資料館紀要 第7号

〈千葉県〉

千葉県立中央博物館

- ・千葉県立中央博物館研究報告ー人文科学ー 第11巻第2号(通巻23号)
- ・年報21
- ・しいむじな 房総の山のフィールド・ミュージアム ニュースレター第28～29号
- ・中央博物館だよりNo.67

城西国際大学物質文化研究センター

- ・物質文化研究 第7号

千葉県立関宿城博物館

- ・平成22年度企画展 利根川舟運と利根運河
- ・研究報告第14号

〈東京都〉

池上本門寺霊宝殿

- ・池上本門寺霊宝殿 特別展 妙玄院日等聖人

板橋区立郷土資料館

- ・平成22年度秋季特別展 「板橋と光学」Vol.2
ー国産35mm一眼レフ誕生の地・板橋ー

板橋区公文書館

- ・一板橋を愛した民族学者ー櫻井徳太郎展
- ・会館10周年記念 板橋区公文書館10年のあゆみ

(財)植村記念財団・植村冒険館

- ・Adventure forum No.11 通巻第34号～
No.12 通巻第35号

お札と切手の博物館

- ・お札と切手の博物館ニュース Vol.27・28

学習院大学 学芸員資格取扱事務室

・学芸員 Bulletin for Curators Course No.14

(株)クックランド 加藤建設株式会社組

・滝坂遺跡Ⅱ

國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター

・グラフィック研究報告 神々を彩るモノシ리즈3 やしろー神社建築ー

国分寺市教育委員会ふるさと文化財課

・見学ガイド 武蔵国分寺のはなし

駒澤大学禅文化歴史博物館

・駒大史ブックレット9 図書館誌にみる駒大図書館史その5

・駒大史ブックレット10 図書館誌にみる駒大図書館史その6

・駒澤大学禅文化歴史博物館年次報告書(平成21年度)

(財) 渋沢栄一記念財団

・青淵 733～744号

・学生寄宿舎の世界と渋沢栄一

・渋沢栄一と関東大震災ー復興へのまなざしー

・Shibusawa Memorial Museum Guide to the Exhibits

・渋沢栄一とアルペール・カーン～日仏実業家交流の軌跡～

・渋沢研究 第22・23号

実践女子学園 香雪記念資料館

・実践女子学園香雪記念資料館館報 第7号(平成21年度)

大東文化大学博物館学講座運営委員会

・大東文化博物館学講座だより 第3号

大東文化歴史資料館

・大東文化博物館学講座だより 第8号

玉川大学教育博物館

・博物館ニュース「集」 No.34～35

・玉川大学博物館 年報 第8号

・玉川大学博物館 紀要 第7号

東京家政学院 生活文化博物館

・第22回特別展 子どもの誕生と日々の暮らし

独立行政法人 国立科学博物館

・milsil 通巻14～17号

(財) 日本博物館協会

・図書館・博物館における地域の知の拠点推進事業 博物館論理規程に関する調査研究報告書

・地域と共に歩む博物館育成事業 日本の博物館総合調査研究報告書

・博物館研究 通巻502～513号

(社) 日本ユネスコ協会連盟

・ユネスコ世界遺産年報2011 No.16

(株)文化環境研究所

・Cultivate No.36～37

・文環研レポート 第30～31号

三鷹市教育委員会

三鷹市埋蔵文化財調査報告

・第32集 大沢総合グラウンド整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

明治大学博物館

・明治大学博物館年報 2008年度

・明治大学博物館年報 2009年度

・明治大学博物館研究報告 第15号

文部科学省生涯学習政策局社会教育課

・博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブッカー発展編ー

立正大学経営学会

・立正経営論集 第42巻 第1・2合併号

立正大学考古学研究会

・立正考古 第47号

NPO法人国際縄文学協会事務局

・国際縄文学協会紀要 第3号

・縄文 21号

〈神奈川県〉

横浜市歴史博物館

- ・企画展 考古学ってなに？
- ・企画展 古墳時代の生活革命ー 5 世紀後半・矢崎山遺跡

大磯町教育委員会

- ・大磯町文化財調査報告書題 48 集 慶覚院蔵木造地藏菩薩坐像

〈長野県〉

長和町教育委員会

- ・概報・鷹山遺跡群 6 長野県小県郡長和町鷹山遺跡群 2009 年度調査概報ー史跡整備に伴う星龔峠黒曜石原産地遺跡第 1 号採掘址の調査ー

〈新潟県〉

長岡市教育委員会

- ・長岡城跡(厚生会館地区)ーシティーホール(仮称)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー
- ・大原 C 遺跡ー市道山本 160 号線改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・下屋敷遺跡ー市道王寺川 48 号線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー
- ・平成 21 年度 長岡市内遺跡発掘調査報告書
- ・特別展 古代ロードと古志の里青年オオムシ見た古代の越後
- ・特別展開催記念講演会 古代ロードと古志の里青年オオムシ見た古代の越後 記録集
- ・馬高縄文館 解説シリーズNo. 1 火焰土器と馬高・三十稲場遺跡

〈富山県〉

富山市教育委員会

富山市埋蔵文化財調査報告

- ・40 富山市八ヶ山 A 遺跡発掘調査報告書

- ・富山市の遺跡物語 No.11

- ・平成 21 年度岐阜市富山市都市間交流事業 越中と美濃を結ぶ考古展ー交流のはじまり 旧石器時代ー古代記念講演

〈静岡県〉

東海大学社会教育センター

- ・海のはくぶつかん Vol.40 No. 2 ～ Vol.41 No. 1
- ・東海大学社会教育センター年報 No. 37

〈愛知県〉

愛知大学

- ・博物館学芸員課程年報 第 14 ～ 15 号

南山大学人類学博物館

- ・南山大学人類学博物館紀要 第 28 号
- ・南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2009 年度年次報告書
- ・南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2009 年度年次報告書 付編 研究会・シンポジウム資料

〈京都府〉

同志社大学歴史資料館

- ・同志社大学歴史資料館年報 第 13 号
- ・同志社大学歴史資料館調査研究報告第 8 集 磐井殿町遺跡発掘調査報告書ー近世二條邸を中心とする調査成果ー
- ・同志社大学歴史資料館調査研究報告第 9 集 南山城の古代寺院
- ・同志社大学歴史資料館調査研究報告第 10 集 相国寺旧境内発掘調査報告書 今出川キャンパス整備に伴う発掘調査(第 1 次～第 3 次)

京都嵯峨芸術大学付属博物館

- ・京都嵯峨芸術大学付属博物館年報 2005 ～ 2007 年度(4 号・合併号)

〈大阪府〉

豊中市教育委員会

- ・文化財ニュース豊中 No.35
- ・豊中市文化財調査報告書第 62 集 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

〈兵庫県〉

関西学院大学博物館開設準備室

- ・関西学院所蔵の絵画 I 誰もやらないことをやれ！—現代に受け継がれる吉原治良の精神—
- ・瀬川美術館・関西大学院連携協力記念 浪花百景 大阪名所案内

〈山口県〉

山口大学埋蔵文化財資料館

- ・山口大学埋蔵文化財資料館年報 4 山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成 18 年度—
- ・季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信『てらこや理文』 第 13～20 号

〈愛媛県〉

鬼北町教育委員会

- ・鬼北町歴史シンポジウム 史跡の保存整備と利活用—国史跡 妙等寺旧境内のこれから—

〈高知県〉

高知県立歴史民俗資料館

- ・岡豊風日 第 70～74 号

〈福岡県〉

筑紫野市教育委員会

筑紫野市文化財調査報告書

- ・第 96 集 名越古墳・薬水墳墓群
- ・第 97 集 大宰府条坊跡第 129 次発掘調査
- ・第 98 集 大宰府条坊跡第 144 次発掘調査
- ・第 99 集 大宰府条坊跡第 183 次発掘調査

- ・第 100 集 立明寺地区遺跡 C 地点 第 1 次発掘調査

- ・第 101 集 松原遺跡

- ・第 102 集 大宰府条坊跡第 166 次発掘調査

- ・第 103 集 大宰府条坊跡第 186 次発掘調査

九州産業大学美術館

- ・九州産業大学美術館年度報告 平成 20・21 年度
- ・キュウサンマンガクロニクル

〈熊本県〉

国立大学法人 熊本大学五高記念館

- ・熊本大学五高記念館館報 第 1 号

〈大分県〉

大分市教育委員会

- ・大分市埋蔵文化財調査報告 2008 年度 大分市埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・第 40 集 下郡遺跡群 I
- ・第 97 集 猪野遺跡 第 3 次調査報告書
- ・第 98 集 横尾遺跡 3
- ・第 99 集 大道遺跡群 3
- ・第 100 集 下郡遺跡群Ⅷ
- ・第 102 集 大友府内 15 中世大友府内町跡 第 83 次調査報告
- ・第 103 集 大友府内 16 中世大友府内町跡 第 84 次調査報告

〈鹿児島県〉

鹿児島大学総合研究博物館

- ・news letter No.23～26
- ・鹿児島大学総合研究博物館年報 No.8

立正大学博物館年報 9

(平成 22 〈2010〉 年度)

平成 23 (2011) 年 5 月 30 日 発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

TEL. 048 - 536 - 6150 FAX. 048 - 536 - 6170

E - mail : museum@ris.ac.jp

URL <http://www.ris.ac.jp/museum/>

印刷・製本；(株)アサヒコミュニケーションズ